

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 21	項目名	草津川跡地整備事業費			主要な施策の 成果 ページ	83	担当 部署	都市計画部 草津川跡地整備課		
予算 科目	会計	1	一般会計			総合 計画 体系	分野	うるおい・景観		
	款	8	土木費				基本方針	やすらぎ・憩いの環境づくり		
	項	4	都市計画費				施策	草津川廃川敷地の活用		
	目	1	都市計画総務費			当初予算における区分	新規施策・拡大施策・ 重点施策 ・その他			
事務事業	338	草津川跡地整備事業費								

↑ 該当するものを○で囲んでください

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) 平成14年に新草津川の通水がはじまり、草津川跡地は今後のまちづくりを進めていくうえで、重要な土地である。 このことから、第5次草津市総合計画に位置付け、草津川跡地の恒久的な利活用を行うため、平成23年5月に草津川跡地利用基本構想を策定し、平成25年度には基本計画に基づき、優先整備区間である区間2(メロン街道～浜街道)と区間5(JR琵琶湖線～国道1号線)の基本設計の策定を行った。 平成26年度から造成工事に着手し、計画的に工事を進めている。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 草津川跡地の区間2および区間5を都市公園として整備する。 市内外からの公園利用者全てを対象とする。
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) にぎわいの創出や人と自然がふれあう憩いとうるおいがある空間とするため、草津川跡地を「琵琶湖と市街地を結ぶ緑軸」として、都市の環境・景観を高め、市民の交流やコミュニティ活動の場を整備することを目的としている。 さらに、災害時については、一時避難地的役割を担い、広域防災機能を強化・補完するため、緊急輸送道路として琵琶湖湖岸道路から国道1号の間を繋ぎ、活用を図る。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) 【H27年度】 ○区間2と区間5の整備工事 ○上記整備工事に係る物件移転等損失補償 等 【参考:H27年度繰越】 ○区間2と区間5の整備工事

■ 予算・決算状況

	当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細	【平成27年度】 ○工事請負費 2,677,005千円 ○設計・現場監理業務 80,263千円 ○物件移転等損失補償費 53,808千円 ○その他事務費等 53,676千円 【参考:平成27年度繰越(H26→H27)】 ○工事請負費 673,172千円					【平成27年度】 ○工事請負費 200,000千円 ○設計・現場監理業務 57,178千円 ○物件移転等損失補償費 6,961千円 ○その他事務費等 39,193千円 【参考:平成27年度繰越(H26→H27)】 ○工事請負費 673,171千円				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
予算・決算額	2,864,752	1,201,562	1,296,600	252,944	113,646	303,332	91,177	90,600	34	121,521
前年度比	152%					70%				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	整備工事に関して、地元の調整に時間を要したことから、当該予算を平成28年度に繰り越したため、決算額が減額となった。									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	1,881,725	1,199,650	534,200	115,030	32,845	430,469	249,953	84,800	33	95,683

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	4	市民ニーズが高い	草津川跡地を最大限に生かした整備をすることで、草津市の都市価値を高め、魅力的なまちづくりを進める必要がある。
	4	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	4	法令により実施することが義務付けられている	第5次総合計画第1期基本計画において、「やすらぎ・憩いの環境づくり」の基本方針の施策として、第2期基本計画においては、リーディングプロジェクト事業として位置づけられており、市民の憩いの場だけでなく災害時の避難場所として活用を想定していることから、確実に整備を進める必要がある。
	4	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	4	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	4	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	4	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	整備費用について、国および県からの補助金を活用することにより、市の財政負担の軽減を図ることができている。
	3	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	4	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	平成29年春の供用開始に向けて、現在、優先整備区間である区間2と区間5の整備を進めており、今後も引き続き事業を継続する必要がある。
	4	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	平成25年度：事業用地取得 平成26年度：事業用地取得・造成工事 平成27年度：整備工事
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.およそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>平成25年度より事業用地の取得に着手し、平成26年度に造成工事に着手した。平成27年度には、引き続き整備工事を実施し、平成29年春の供用開始に向けて整備を推進している。</p> <p>また、運営体制について、供用開始後の公園において、活発に市民活動を展開していくため、ワークショップを定期的開催し、「供用開始後にどのように市民活動を展開していくのか」について、市民活動団体と議論を重ねた。</p> <p>さらに、供用開始後の市民活動を具現化するために、平成27年10月に「社会実験」を行い、市民活動団体自らが企画、運営に携わり、市民活動の拡大を図るためのイベントプログラムを実施した。</p>					
事業に対する市民の意見、反応	<p>草津川跡地利用基本構想の策定段階において、市民アンケートを実施し、草津川跡地の整備の必要性について、8割以上の方が必要であると回答された。</p> <p>また、草津川跡地に整備すべき施設として公園、防災拠点、道路等の回答が多くあった。</p> <p>このことから、市民の草津川跡地整備への関心の高さと必要とされている施設の判断ができ、市民が安心・憩い・うるおいのある空間形成を期待されていることが分かった。</p>					
事業の今後の課題、将来展望	<p>草津川跡地を魅力的空間とし、市民に愛され持続的に利用される公園となるよう整備を行うことと併せて、整備後の持続可能な運営管理の実現に向けて、市民、事業者、行政など多様な主体が連携をとり、協働による公園のにぎわいとるおい作りのできる体制を構築する必要がある。</p> <p>また、草津川跡地で多様な団体が主体的に取り組んでいくことができるよう、引き続き関係団体に参加を呼びかけていく必要がある。</p>					
※平成28年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		174,389	3,243	2,300	134,281	34,565
	27年度比 積算根拠	6%				
	【平成28年度】			【参考：平成28年度繰越(H27→H28)】		
	○工事請負費 35,664千円			○工事請負費 2,109,734千円		
	○基本設計(国道1号平面化部、区間6) 20,834千円			○物件移転等損失補償費 46,894千円		
	○設計・現場監理業務 77,240千円			○その他事務費等 15,680千円		
	○その他事務費等 40,651千円					

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。